

LAMPIRAN 1

Data dari drama *Hanafubuki Koifubuki* :

1. 五右衛門を中心に、この物語の登場人物たちが、それぞれのポーズで登場。
2. 善次 : 助左、俺たち、友だちだよなあ?! 頼むよ! 少しの間でいい、もしよかったら、ルソン、どこでもいい、近くこの国を出る船に乗せてくれないか?!
3. 助左 : 少しの間だけだぞ…。
善次 : 助左、かたじけない!この恩は一生かけても返すぜ!
助左 : 文吾。
4. 周囲の忍者たち、忍びの技の鍛錬をつづける中、文吾とその仲間の四人だけが、別の動きをする。
5. 善次 : 文吾、今じゃ! 今宵千載一遇の機会。これを逃したら、もう二度とこの闇から抜け出せない。
6. 才蔵 : 謀ったな! お前たち。梟の掟を知り、その群れから離れるものを生かしておく訳にはいかぬ! やれ!
7. 善次 : 今川方は壊滅のようじゃ。信じられん。織田のあんなちっぽけな軍勢が、あの今川の大軍を葬り去るとはなあ…。
助左 : あの信長という男、やはりただのうつけ物とは違うようだな。
8. 文吾 : その時は、戦う。どちらかがこの世から消えたい限り、この堂々巡りは続くだろうよ。あいつらは心をなくした梟だ。心がない故、彼らはその使命を一途にまっとうしようとする。俺たちもそうだった。

9. 助左 : 俺は、幼い頃から船に乗り、この国を飛び出て大海原を駆け巡ることが夢だったんだ。
10. 藤吉郎 : 待て待て、早まるな。悪かった…木下藤吉郎、織田信長様より栄えある最後尾の任を仰せつかったのじゃ。今川の荒くれた残党兵を一掃するため、この桶狭間に居残ったのじゃ！
- 助左 : ふーん。そういうたまには見えんがなあ…。
11. 藤吉郎 : そうじゃ、俺は商いには興味があつてな。これからは貿易じゃ。この国は小さすぎる。大海原のむこうには俺たちがまだ見たことのない国がぎょうさん存在するのじゃ。おぬしら、海を見よ！
12. 文吾 : そうかも…、だが、この国はあの男には大きすぎる。
13. 文吾 : わかった。お前の夢を叶えてこい！その時、また逢おう。
- 助左 : 文吾、かたじけない！
14. 善次 : わしなあ、これまでも少なからず人を斬ってきた。清算したいんじゃ…。そりゃあその罪を無くすことなんてできやしないさ。はじめって奴かな（笑）。仏さんに御仕えしたいんじゃ。
15. 初音 : 助左も善次も行ってしまった…自分たちの夢を求めて…。
- 文吾 : 初音、俺が伊賀の郷に連れて来られた時のこと、覚えているか！？
- 初音 : 覚えているわ。笑いもしない、ぶっきらぼうな男の子だった。
- 文吾 : この伊賀の郷にやって来たのは四つの時だった。桜舞い散る春の夕暮れ時の風景が、今も目に鮮やかに焼きついている…かすかに残る、母の面影も。
16. しま : 文吾、向こうで遊んでおいで。母様はここから見ているから…。

道順 : 優しそうな子ですな。

しま : はい…。

道順 : いくつになられた？

しま : この春で四つになりました。体は丈夫で機転の利く賢い男の子です。

道順 : ちと、大きくなりすぎましたなあ。この爺のもとにやって来る子どもたちは、皆生まれて間もないよちよち歩きの赤子ばかり。それに物心ついたこの年では、到底これからの厳しい修行、技の鍛錬に耐え抜くことは不可能でしょう。

しま : あの子を煮るなり焼くなりご自由に. . . 。私はもう、あのこの母 ではありません…。

17. 道順 : 人を窓わす魔性のまなざし。あの子は己の欲望のままにその人生を謳歌し、己の優しさ故にその命を破滅に追い込むであろう、恐ろしいほどの強い相が出ておる。後悔はなさらぬな！？母君！？

しま : 私はもう、あの子の母ではございませぬ…。

18. 文吾 : 母は四つになった俺をひとり、この伊賀の郷に残し消えた。生きているのか、死んでしまったのか！？ それすら定かでわらない。そして、その日から一人きりになった俺を包んでくれたのは初音だった. . . 。

初音 : あたしが、守ってあげる…。

19. 熊若 : 桶狭間を俳諧していると聞いたが…。

忍者 B : 追っても消息がつかめずじまいで…。

桔梗 : この役立たず！

忍者 B : お許しを…。

20. 道順 : 確かにあの文吾は一筋縄ではいかぬ男じゃ。だからこそ我々伊賀の郷から出してはならぬ男じゃったんだ。あいつの才覚をもってすれば、この時代一国一城の主とて夢ではない男じゃ。

才蔵 : …。

道順 : 悔しいのお。だったら、早く殺れ！あいつを野放しにして
おくと、今に大変なことが起こるぞ！

21. 又木 : どうして助けた？

文吾 : 何故かくまった！？

又木 : わからぬ！ただ、自分の敗れた相手をみすみす追っ手に引
き渡すことは俺様の筋道からは到底できやしないことなん
だよ。

文吾 : その礼だ…。

22. 又木 : 俺たちの仲間にならないか！？

文吾 : 盗人風情のほどこしを受けるほど落ちぶれてはおらん。

又木 : 言ってくれるなあ。盗みは盗みでも弱い者からは奪いやし
ねえぜ。狙いは金銀財宝のお宝を独り占めしてなも無き民
衆を苦しめる高官や商人さ。もちろんその金もしっかり世
間に還元してるつもりだが…。どうだい、文吾さんって言
ったねえ、あんたに流れているその血、ウズウズしてそう
だぜ。さっきお前さんに斬られた時、直感したよ。

23. 文吾 : 一度死んだとおなじこの身、賭けてみるか！？まだ見えぬ
この世の先を…闇の向こうに何があるか、新たな自分を探
しに…。初音、文吾はたった今死んだ。伊賀の下忍石川文
吾は死んだ。

又木 : よしっ！決まったぜ！

勝 : 新しい名前が必要だ！

又木 : 閃いた！五右衛門てのはどうだい！？

梢 : 素敵！

- 又木 : 俺に梢、それに仁兵衛に勝、そして初音さん、この五人の運命お前にあずけるぜ！その門出って訳だ！それで五右衛門だ、どうだい！？
24. 善次 : 文吾、初音、助左、元気か？ わしは元気にやっとなる。今、わしは比叡山の延暦寺というところで仏の道について教を請うている。厳しいその修行も、伊賀での地獄を考えれば心穏やかな毎日じゃ。
25. 秀吉 : 助左、久しぶりじゃのう。首尾は佐吉から聞いておる。商人としての才覚はなかなかのものだそうじゃな。
- 助左 : 恐れいります。この助左、桶狭間での殿との出会いにより運命が変わりました。
- 秀吉 : 実は、あの時はなあ、一人であの山中を脱け出るのが心細くてな…。それが武術も心得ておる助左に出会って、薫をもつかむ思いだったんじゃ。思えば不思議な縁よのう。
26. 才蔵 : 久しぶりだな。
- 梢 : 何の用だ？！
- 才蔵 : 文吾と新たに徒党を組んでいるそうじゃないか。
- 梢 : お前たちには関係ない。
- 才蔵 : 少しばかり我々にご尽力賜りたいのだが…。
- 梢 : 何であんたたちのために協力しなきゃいけないのよ！？
- 才蔵 : お前、あの文吾、否、五右衛門に惚れているだろう？！
- 梢 : 惚れてなんかないわよ！
27. ねね : 佐吉、佐吉！
- 佐吉 : はっ！
- ねね : あの女は誰よ！
- 佐吉 : あっ、あのですねえ…。

- ねね : おっしやい!
- 佐吉 : 初音様と申しまして…殿の恩人と申しましょうか…何というか…。
28. 初音 : 文吾、笛はお前との子です。あたしはどんなに構わない…、でも、この子だけは…、文吾、笛を…、笛を救って!
29. 才蔵 : 文吾は必ずこの長浜の城にやって来る。狙うは中庭で行われる筑前の中国出陣の宴だ。ぬかるな! 裏切り者はけす!
30. 秀吉 : 佐吉、初音と笛は?!
- 佐吉 : 奥の間でお休みに…奥方様もいらっしゃいます。この場ではちと…。
- 佐吉 : そうであるな…、(ご機嫌を取るように) ねね!
31. 五右衛門 : 羽柴筑前守殿。石川五右衛門、奪われたお宝を取り戻しにここに参上。
- 才蔵 : 文吾、とうとう現れたな。待ってたぜ!
- 五右衛門 : 才蔵、今こそ勝負つけてやる。この恨み果たさん!
- 佐吉 : 引っ立てい、引っ立てい!
32. 三成 : 奴をおびき出す手はず…何かないものか?!
- 才蔵 : そういえば、堺には太閤様のこがいの商人、納屋助左衛門がおりましたなあ…。
- 三成 : ああ、あの伊賀の下忍くずれか?!
- 才蔵 : あいつの周辺を利用してみては?!
33. しま : お母上をお恨み申したか?
- 五右衛門 : お恨み申したゆえ、一日たりとも忘れたことなどござらん。恨みが募れば募るほど、会いたい気もちは抑えきれないものになり申した。

しま : 五右衛門殿の母上は幸せじゃ。この言葉、きっとどこかで聞きながら喜びに泣いておろう。

五右衛門 : あの…。

34. 三成 : いやあ、助左はもう五右衛門との関係を切っておる。あいつかてせっかく作り上げたその名と財産をみすみす危険にさらすことはないさ。今どき、接触はないだろう。

才蔵 : わかりませぬぞ…、大商人納屋助左衛門といえども元は文吾と同じ穴のムジナ。何か秘密が隠されているかもしれませぬ。

三成 : さようかな？！

35. 佐吉 : 見ておったな。

才蔵 : はっ！

佐吉 : 石川五右衛門と名乗るあの者、おぬしの捜しておる石川文吾と初音そのものであったな？！

才蔵 : いかにも…。

36. 佐吉 : この石田佐吉、おぬしの恨みを晴らす旨約束した。もうわかっていよう！？

才蔵 : …。

37. 助左 : 何の用だ？

熊若 : 何、心配するな。お前をしょっぴいたり、お前の財産根こそぎ奪おうなんて思っちゃいねえからよ。

桔梗 : ちょっと話があるんだけどね。

助左 : もう俺に構わないでくれ！

熊若 : 言うことを聞いてくれたらもう知らん顔しててやるよ。

桔梗 : その前に…。

熊若　：お前、信長暗殺未遂の大罪人、杉谷善次をかくまっている
だろう？！

38. 五右衛門　：時が来た。初音、善次、見ていてくれ。お前たちの流
した涙、志なかばで朽ち果てたい想い…、この五右衛
門がすべて預かっ　た。血で血を洗いながしてきた風
雲児たちが作り上げた時代。そのうねりに翻弄された
者たちの叫び声が聞こえてくる。行き場のない魂が辿
り着く新しい時代へ…。殺るか、殺られるか、勝負
だ！

又木たち　：おう！

39. 秀吉　：石川五右衛門、これまでの強盗、殺人の数々、世間を恐怖
におとしいれた罪は断じて許すことの出来ぬものばかり。
挙句の果てにはこの太閤の命をも狙うその1非道な行ない
には唯々驚くばかりだが、その2勇気と度胸には感服いた
すものなり。よってその3名に相応しい最期をつこれに用
意した。釜茹でじゃ…。

民衆　：（どよめく）

LAMPIRAN 2

Klasifikasi data berdasarkan data drama berjudul *Hanafubuki Koifubuki* :

この

- 1.(1) 五右衛門を中心に、この物語の登場人物たちが、それぞれのポーズで登場。
- 2.(9) 助左 : 俺は、幼い頃から船に乗り、この国を飛び出て大海原を駆け巡ることが夢だったんだ。
- 3.(19) 熊若 : 桶狭間を俳諧していると聞いたが…。
忍者 B : 追っても消息がつかめずじまいで…。
桔梗 : この役立たず！
忍者 B : お許しを…。
- 4.(36) 佐吉 : 石川五右衛門と名乗るあの者、おぬしの捜しておる石川文吾と初音そのものであったな？！
才蔵 : いかにも…。
佐吉 : この石田佐吉、おぬしの恨みを晴らす旨約束した。もうわかっていよう！？
才蔵 : …。
- 5.(28) 初音 : 文吾、笛はお前との子です。あたしはどんなに構わな
い…、でも、この子だけは…、文吾、笛を…、笛を救っ
て！
- 6.(29)才蔵 : 文吾は必ずこの長浜の城にやって来る。狙うは中庭で行わ
れる筑前の中国出陣の宴だ。ぬかるな！裏切り者はけす！
- 7.(30) 秀吉 : 佐吉、初音と笛は？！

佐吉 : 奥の間でお休みに…奥方様もいらっしゃいます。この場ではちと…。

佐吉 : そうであるな…、(ご機嫌を取るように) ねね!

8.(31) 五右衛門 : 羽柴筑前守殿。石川五右衛門、奪われたお宝を取り戻しにここに参上。

才蔵 : 文吾、とうとう現れたな。待ってたぜ!

五右衛門 : 才蔵、今こそ勝負つけてやる。この恨み果たさん!

佐吉 : 引っ立てい、引っ立てい!

9.(33) しま : お母上をお恨み申したか?

五右衛門 : お恨み申したゆえ、一日たりとも忘れたことなどござらん。恨みが募れば募るほど、会いたい気もちは抑えきれないものになり申した。

しま : 五右衛門殿の母上は幸せじゃ。この言葉、きっとどこかで聞きながら喜びに泣いておろう。

五右衛門 : あの…。

10.(10) 藤吉郎 : 待て待て、早まるな。悪かった…木下藤吉郎、織田信長様より栄えある最後尾の任を仰せつかったのじゃ。今川の荒くれた残党兵を一掃するため、この桶狭間に居残ったのじゃ!

助左 : ふーん。そういうたまには見えんがなあ…。

11.(15) 初音 : 助左も善次も行ってしまった…自分たちの夢を求めて…。

文吾 : 初音、俺が伊賀の郷に連れて来られた時のこと、覚えているか!?

初音 : 覚えているわ。笑いもしない、ぶっきらぼうな男の子だった。

文吾 : この伊賀の郷にやって来たのは四つの時だった。桜舞い散る春の夕暮れ時の風景が、今も目に鮮やかに焼きついている…かすかに残る、母の面影も。

その

1.(4) 周囲の忍者たち、忍びの技の鍛錬をつづける中、文吾とその仲間の四人だけが、別の動きをする。

2.(6) 才蔵 : 謀ったな！お前たち。梟の掟を知り、その群れから離れるものを生かしておく訳にはいかぬ！やれ！

3.(8) 文吾 : その時は、戦う。どちらかがこの世から消えたい限り、この堂々巡りは続くだろうよ。あいつらは心をなくした梟だ。心がない故、彼らはその使命を一途にまっとうしようとする。俺たちもそうだった。

4.(13) 文吾 : わかった。お前の夢を叶えてこい！その時、また逢おう。

助左 : 文吾、かたじけない！

5.(14) 善次 : わしなあ、これまでも少なからず人を斬ってきた。清算したいんじゃ…。そりゃあその罪を無くすことなんてできやしないさ。はじめって奴かな（笑）。仏さんに御仕えしたいんじゃ。

6.(18) 文吾 : 母は四つになった俺をひとり、この伊賀の郷に残し消えた。生きているのか、死んでしまったのか！？ それすら定かでわない。そして、その日から一人きりになった俺を包んでくれたのは初音だった…。

初音 : あたしが、守ってあげる…。

7.(21) 叉木 : どうして助けた？

文吾 : 何故かくまった！？

叉木 : わからぬ！ただ、自分の敗れた相手をみすみす追っ手に引き渡すことは俺様の筋道からは到底できやしないことなんだよ。

文吾 : その礼だ…。

8.(22) 又木 : 俺たちの仲間にならないか!?

文吾 : 盗人風情のほどこしを受けるほど落ちぶれてはおらん。

又木 : 言ってくれるなあ。盗みは盗みでも弱い者からは奪いやしねえぜ。狙いは金銀財宝のお宝を独り占めしてなも無き民衆を苦しめる高官や商人さ。もちろんその金もしっかり世間に還元してるつもりだが…。どうだい、文吾さんって言ったねえ、あんたに流れているその血、ウズウズしてそうだけ。さっきお前さんに斬られた時、直感したよ。

9.(34) 三成 : いやあ、助左はもう五右衛門との関係を切っておる。あいつかてせっかく作り上げたその名と財産をみすみす危険にさらすことはないさ。今どき、接触はないだろう。

才蔵 : わかりませぬぞ…、大商人納屋助左衛門といえども元は文吾と同じ穴のムジナ。何か秘密が隠されているかもしれません。

三成 : さようかな?!

10.(37)助左 : 何の用だ?

熊若 : 何、心配するな。お前をしょっぴいたり、お前の財産根こそぎ奪おうなんて思っちゃいねえからよ。

桔梗 : ちょっと話があるんだけどね。

助左 : もう俺に構わないでくれ!

熊若 : 言うことを聞いてくれたらもう知らん顔しててやるよ。

桔梗 : その前に…。

熊若 : お前、信長暗殺未遂の大罪人、杉谷善次をかくまっているだろう?!

11.(38)五右衛門 : 時が来た。初音、善次、見ていてくれ。お前たちの流した涙、志なかばで朽ち果てたい想い…、この五右衛門がすべて預かった。血で血を洗いながしてきた風雲児たちが作り上げた時代。そのうねりに翻弄された者たちの叫び声が聞こえてくる。行き場のない魂が辿り着く新しい時代へ…。殺るか、殺られるか、勝負だ!

又木たち : おう！

12.(39)秀吉 : 石川五右衛門、これまでの強盗、殺人の数々、世間を恐怖におとしいれた罪は断じて許すことの出来ぬものばかり。挙句の果てにはこの太閤の命をも狙うその 1 非道な行ないには唯々驚くばかりだが、その 2 勇気と度胸には感服いたすものなり。よってその 3 名に相応しい最期をっこれに用意した。釜茹でじゃ…。

民衆 : (どよめく)

13.(23)文吾 : 一度死んだとおなじこの身、賭けてみるか！？まだ見えぬこの世の先を…闇の向こうに何があるか、新たな自分を探しに…。初音、文吾はたった今死んだ。伊賀の下忍石川文吾は死んだ。

又木 : よしっ！決まったぜ！

勝 : 新しい名前が必要だ！

又木 : 閃いた！五右衛門てのはどうだい！？

梢 : 素敵！

又木 : 俺に梢、それに仁兵衛に勝、そして初音さん、この五人の運命お前にあずけるぜ！その門出って訳だ！それで五右衛門だ、どうだい！？

14.(24)善次 : 文吾、初音、助左、元気か？ わしは元気にやっとする。今、わしは比叡山の延暦寺というところで仏の道について教を請うている。厳しいその修行も、伊賀での地獄を考えれば心穏やかな毎日じゃ。

あの

1.(7) 善次 : 今川方は壊滅のようじゃ。信じられん。織田のあんなちっぽけな軍勢が、あの今川の大軍を葬り去るとはなあ…。

助左 : あの信長という男、やはりただのうつけ物とは違うようだな。

- 2.(16) しま : 文吾、向こうで遊んでおいで。母様はここから見ているから…。
- 道順 : 優しそうな子ですな。
- しま : はい…。
- 道順 : いくつになられた？
- しま : この春で四つになりました。体は丈夫で機転の利く賢い男の子です。
- 道順 : ちと、大きくなりすぎましたなあ。この爺のもとにやって来る子どもたちは、皆生まれて間もないよちよち歩きの赤子ばかり。それに物心ついたこの年では、到底これからの厳しい修行、技の鍛錬に耐え抜くことは不可能でしょう。
- しま : あの子を煮るなり焼くなりご自由に. . . 。私はもう、あのこの母ではありません…。
- 3.(20) 道順 : 確かにあの文吾は一筋縄ではいかぬ男じゃ。だからこそ我々伊賀の郷から出してはならぬ男じゃったんだ。あいつの才覚をもってすれば、この時代一国一城の主とて夢ではない男じゃ。
- 才蔵 : …。
- 道順 : 悔しいのお。だったら、早く殺れ！あいつを野放しにしておくと、今に大変なことが起こるぞ！
- 4.(25) 秀吉 : 助左、久しぶりじゃのう。首尾は佐吉から聞いておる。商人としての才覚はなかなかのものだそうじゃな。
- 助左 : 恐れいります。この助左、桶狭間での殿との出会いにより運命が変わりました。
- 秀吉 : 実は、あの時はなあ、一人であの山中を脱け出るのが心細くてな…。それが武術も心得ておる助左に出会って、藁をもつかむ思いだったんじゃ。思えば不思議な縁よのう。
- 5.(35) 佐吉 : 見ておったな。

才蔵 : はっ！

佐吉 : 石川五右衛門と名乗るあの者、おぬしの捜しておる石川文吾と初音そのものであったな？！

才蔵 : いかにも…。

6.(26) 才蔵 : 久しぶりだな。

梢 : 何の用だ？！

才蔵 : 文吾と新たに徒党を組んでいるそうじゃないか。

梢 : お前たちには関係ない

才蔵 : 少しばかり我々にご尽力賜りたいのだが…。

梢 : 何であんたたちのために協力しなきゃいけないのよ！？

才蔵 : お前、あの文吾、否、五右衛門に惚れているだろう？！

梢 : 惚れてなんかないわよ！

7.(27) ねね : 佐吉、佐吉！

佐吉 : はっ！

ねね : あの女は誰よ！

佐吉 : あっ、あのですねえ…。

ねね : おっしやい！

佐吉 : 初音様と申しまして…殿の恩人と申しましょうか…何というか…。

8.(32) 三成 : 奴をおびき出す手はず…何かないものか？！

才蔵 : そういえば、堺には太閤様のこがいの商人、納屋助左衛門がおりましたなあ…。

三成 : ああ、あの伊賀の下忍くずれか？！

才蔵 : あいつの周辺を利用してみては？！

9.(17) 道順 : 人を窓わす魔性のまなざし。あの子は己の欲望のままにその人生を謳歌し、己の優しさ故にその命を破滅に追い込むであろう、恐ろしいほどの強い相が出ておる。後悔はなさぬな！？母君！？

しま : 私はもう、あの子の母ではございませぬ…。

RIWAYAT HIDUP PENULIS

1. DATA PRIBADI

Nama : Muhammad Hamim

Tempat / Tanggal Lahir : Palembang, 09 Oktober 1986

Jenis Kelamin : Laki-laki

Agama : Islam

Anak Ke : 1 dari 2 bersaudara

Alamat : Jln. Sukakarya IV No.13

Nama Ayah : Muhammad Alfian

Nama Ibu : Royhilla

2. PENDIDIKAN

1992-1997 : Sekolah Dasar Yayasan Kesejahteraan Pegawai
Pertamina Prabumulih, Sumatera Selatan.

1997-1998 : Sekolah Dasar Negeri 1 Prabumulih, Sumatera Selatan.

1998-2001 : Sekolah Menengah Pertama Negeri 1 Prabumulih,
Sumatera Selatan.

2001-2004 : Sekolah Menengah Atas Negeri 1 Prabumulih,
Sumatera Selatan.

2004-2009 : Mahasiswa Jurusan Sastra Jepang Universitas Kristen
Maranatha Bandung.